

大会 取 り 決 め 事 項

1. 代表者会議での説明、又は、決められた事項は、チーム全員(保護者も含む)に必ず周知徹底させること。
2. 参加チームは、選手10名以上20名以内で編成したチームとする。
3. 抽選後の試合日程及び試合開始予定時刻の変更は、原則として認めない。(初戦はこの限りではない)
なお、学校行事等については、証明書が必要
4. 球審は、京都軟式野球連盟西京支部の審判員が担当する。なお、3塁審は西京少年野球会審判員が担当する。準決勝・決勝は、京都軟式野球連盟西京支部の審判員が担当する。
5. ストライク、ボール、アウト、セーフの判定に対する抗議は一切認めない。
6. 悪質なヤジ、選手・審判員へのヤジは、絶対にさせないこと。(応援の保護者も周知徹底のこと)
7. 選手及び応援団の行動については、当該チームが一切の責任を負うものとする。
8. 試合中における不慮の災害及び事故の発生については、大会本部は応急処置は行うがその他は当該チームの負担とする。
9. 競技に関する特別規則及び注意事項
 - ① 試合は6回、試合時間は1時間20分とし、1時間20分以降は新イニングに入らない。
終了して同点の場合は、タイブレーク(無死一二塁・打者継続)1回とし、尚且つ同点の場合は最終メンバー9人による、抽選で決定する。
ただし、決勝戦は、7回、試合時間は1時間30分とし、1時間30分以降は新イニングに入らない。
・準々決勝、準決勝、決勝戦での同点の場合は、タイブレーク無死一二塁・打者継続(2回まで)とし、尚且つ同点の場合は抽選とする。
 - ② コールドゲームは、4回以降10点、5回以降7点以上の差がある場合に適用する。
ただし、決勝戦はこの限りではない。
 - ③ ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
 - ④ ベンチに入れる者は、代表者1名 監督、コーチ2名、スコアラ1名と登録選手とする。
ただし、チームの帽子を着用し、ベンチに入るものとする。
 - ⑤ 試合チームは、試合開始予定時刻30分前までにグラウンドに到着して、本部準備のメンバー表にフルネームを記載した4部作成し、スコアブックと共に本部に提出する。
 - ⑥ 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合は、予定時間の15分前倒しを限度に次の試合を開始する。
 - ⑦ 試合開始時刻30分前になってもチームがグラウンドに揃わない場合は、原則として棄権とみなす。
 - ⑧ 小雨の場合でも日程の都合上、グラウンドが使用可能の状況の場合は、試合を強行する。
 - ⑨ 5回以前で試合継続不可能の場合は、ノーゲームとし、後日再試合とする。
 - ⑩ 5回終了以降で、試合継続不可能の場合は、コールドゲームとする。ただし、同点の場合は再試合とする。
 - ⑪ ヒット・バイ・ピッチ(死球)・ボーク・申告敬遠を採用する。
 - ⑫ 変化球は一切禁止とする。(判定は球審の権限とし、全日本軟式野球連盟取り決め事項を適用する。)
 - ⑬ 大会使用球は、大会本部の準備した連盟公認、マルエスボールJ号を使用する。
 - ⑭ 捕手は、連盟公認(JSBB)マスク・ヘルメット・レガード・プロテクターを着用しなければならない。
また、ファウルキャップを着用すること。なお、練習投球に関しても同対応しなければならない。
 - ⑮ 打者、走者及びランナーコーチは、必ずヘルメットを着用しなければならない。
 - ⑯ 金属製バットは、連盟公認(JSBB)のみ使用できる。
 - ⑰ 同一チームの選手、監督、コーチは、ユニフォームを統一して着用しなければならない。
 - ⑱ 試合中のタイムは、プレーヤの要求した時ではなく、審判員が認めた時である。
 - ⑲ 抗議のできる者は、監督又は当該プレーヤのみとし、ルールの適用を誤った時のみ許される。
 - ⑳ どんな方法であろうと、相手チームのプレーヤ又は審判員に対する暴言、暴力行為は厳禁とする。
なお、暴力行為があった場合は、当該チーム全体の責任とし、没収試合として、相手チームの勝利とする。
 - ㉑ 監督、コーチのサングラス(ミラーレンズも含む)は着用のみ可とする。選手に関しては試合開始前に本部へ届けること。
9. 大会において不正を行ったチームに対しては次の処置を行う。
 - ア. 試合中に発見された場合は、対戦チームに勝利を与える。
 - イ. 試合終了後に発見された場合は、次の対戦チームに勝利を与える。
 - ウ. 決勝戦終了後に発見された場合は、準優勝チームを優勝とする。
10. ベンチ内は、禁煙とする。試合中に、喫煙を目的にベンチを離れた場合は、再度ベンチに復帰できない。
11. 開催当該年度公認野球規則及び日本軟式野球連盟の内規を適用する。
なお、開催時期に応じては開会式で審判部宣言を正とする。
12. 西京支部特別ルール
 - ア. ダブルヘツタの場合は、ピッチャーの投球回数を7イニングまでとする。
 - イ. 令和3年度より投手の投球制限(4年生 60球、5・6年生 70球)を採用する。
なお、投球数については大会本部で数えるものとする。
 - ウ. 選手の作戦タイムは3回までとする。
13. 雨天時の決行又は中止は、午前7時前に決定し、当該チーム代表者に連絡する。
14. グラウンドでのタバコの吸殻、空き缶等、食事後のゴミは、当該チームが必ず持ち帰ること(厳守)